

□講義科目（専門科目）

科目名	保健体育科教育特論	2単位
担当者	吉田文久、吉岡隆之	
テーマ	保健・体育授業の授業づくり及び授業研究の理論及び実践	
科目のねらい	<p><キーワード> ① 授業づくり ② 授業研究 ③ インクルーシブ体育 ④ PDCA サイクル ⑤ 教科の存立基盤</p> <p><内容の要約> 教育実習はじめ教育現場での授業実践を経験し、また参観してきたことをもとに、保健体育科教育関係の雑誌、学会発表や論文における体育実践の現状、研究成果や課題を整理し、現場に直結し、PDCA サイクルに基づく保健及び体育の授業づくりについて検討する。ここでは、異質協同、インクルーシブ体育を土台として、生徒の多様性に的確に対応できる体育教師の資質を身につけ、さらに、保健体育という教科の存立基盤を明らかにする議論を含める。</p> <p><学習目標> 1. 教育現場の保健及び体育実践の成果と課題を雑誌、論文を読み解き、説明することができる。 2. 教育現場における実践に直結する保健及び体育の授業づくり、授業研究の高度な専門的知識を身につけることができる。 3. 諸外国の取り組みを含め、保健及び体育実践におけるこれまでのインクルーシブ体育の実践の成果と課題について説明でき、これからの在り方を提示することができる。 4. 保健体育が教科として位置づく教科固有の価値について説明することができる。 5. 体育科教育、保健科教育及び安全教育の連携について理解し、説明することができる。</p>	
授業の進め方	第1回 保健科教育及び安全教育に関する教材開発<担当: 吉岡> 第2回 アクティブラーニングを生かした保健科教育の実践<担当: 吉岡> 第3回 保健科教育の授業評価法Ⅰ<担当: 吉岡> 第4回 保健科教育の授業評価法Ⅱ<担当: 吉岡> 第5回 まとめ<担当: 吉岡> 第6回 体育実践の現状と課題Ⅰ（体育科教育関係の雑誌論文、実践報告に基づいて）<担当: 吉田> 第7回 体育実践の現状と課題Ⅱ（体育科教育関係の学会誌論文に基づいて）<担当: 吉田> 第8回 体育におけるカリキュラム論Ⅰ（日本の学習指導要領の変遷と改訂の意図）<担当: 吉田> 第9回 体育におけるカリキュラム論Ⅱ（イギリスのナショナル・カリキュラム）<担当: 吉田> 第10回 インクルーシブ体育の現状と課題Ⅰ（日本）<担当: 吉田> 第11回 インクルーシブ体育の現状と課題Ⅱ（海外）<担当: 吉田> 第12回 体育における教材づくり、教材開発研究の可能性と問題点<担当: 吉田> 第13回 体育におけるPDCA サイクルの理解と実践<担当: 吉田> 第14回 体育の教科としての存立の根拠の議論<担当: 吉田> 第15回 まとめ<担: 吉田>	
事前学習の内容 学習上の 注意	予習：該当する内容について、参考書などを熟読し、疑問点などを明確にして授業に臨むこと。 復習：授業内容を深めるとともに、不明確な内容については再度学習すること。 その他：授業には積極的な姿勢で参加すること。	
本科目の 関連科目	スポーツフィールドスタディ演習A	
テキスト	『中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編』（平成29年、平成30年）	
参考文献	『体育科教育学への探求』（竹田、高橋、岡出編著）大修館書店、1997年 『体育科教育学の現在』（岡出、松田、近藤他編集）創文企画、2015年 『保健科教育法入門』（日本保健科教育学会）大修館書店、2017年 『学校保健実務必携』（学校保健・安全実務研究会）第一法規、2017年	

成績評価方法
と基準

プレゼンテーション 20%、課題レポート 30%、最終レポート 50%により総合評価し、60 点以上を合格とする。